

科目区分：造形芸術コース

授業科目名：芸術概論

美術館見学実習を活用した美術鑑賞入門

美術教育専修 上原真依

I. 授業の概要

「芸術概論」は、芸術文化課程の1年生を主な対象とした課程共通必修科目である。本年は、造形芸術コース13名（うち1年生11名）および音楽文化コース11名（すべて1年生）の計24名が受講した。

1) 授業目的

芸術作品を注意深く観察して、他の作品と比較したり、また歴史や背景を探ったりすることで、作品の面白さを理解する。

2) 到達目標

・作品をただ眺めるのではなく、作品から芸術家の関心や工夫、当時の社会的背景まで探れる力を養う。

・作品を正確に記述し、人に伝えられる表現方法を身につける。

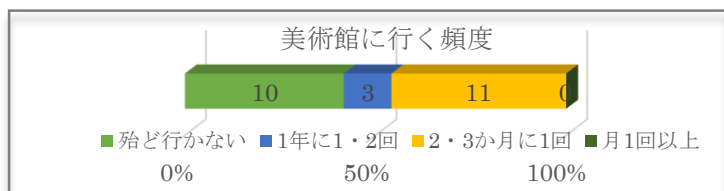
3) 関連するディプロマ・ポリシー

・生涯学習社会を築くため、芸術文化全般にわたる確かな知識と、得意とする分野における専門的知識を修得している。(知識・理解)

・芸術分野におけるさまざまな問題について考察し、幅広い視野で適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

4) 今年度、特に意識して取り組んだこと

美術作品を正しく理解するには、まず美術館などで本物を実際に見ることが重要である。しかし第1回オリエンテーションで行ったアンケートでは、殆ど美術館に行かないと答えた受講生が約4割強だった。(下記参照)



そこで本授業では、①美術作品の面白さに気づき、作品を積極的に読み取る姿勢を育む ②美術館見学実習を行い、実際に作品鑑賞を行う ③見学実習がより有意義なものになるよう見学先の所蔵作品やコレクションについて解説し、作品鑑賞への関心を高めることを意識した。

5) 授業方法、形態、内容の概要

本授業は先述した取り組みを踏まえ、①ルネサンス期作品を対象とした作品の読解（第2回～第7回）②倉敷市大原美術館での見学実習（第13回～第14回）③大原美術館所蔵作品およびコレクションの解説（第10回～第12回）④見学実習レポート作成のためのディスクリプションの解説と実践（第8回～第9回）を行った。第15回には記述式のテストとまとめを行い、毎回の授業での小レポート、見学実習レポートも合わせて総合的に評価を行った。

①ルネサンス期作品を対象とした作品の読解

マザッチョ、レオナルド・ダ・ヴィンチなど代表的な画家の作品から、毎回1-2点を取り上げ観察・比較した。細部まで鋭く分析して発現させることで、表現の違いから作者の手を判断したり、作者の意図や工夫を読み取る練習を行った。

②倉敷市大原美術館での見学実習

第1回にアンケートを行い、受講生の都合を聞いたうえで、2月2日（日）に実施した。見学先としては、印象派の作品が多く、日本の近現代作品もそろそろ大原美術館を選出した。見学当日のスケジュールは次の通り。

8:30 愛媛大学正門集合→（大型バス貸切）→
11:10 倉敷着、11:25～11:55 大原美術館学芸員によるギャラリートーク、12:00～15:30 大原美術館内自由見学&各自昼食、15:30→

（大型バス貸切）→18:15 愛媛大学正門。費用は一人4600円（往復交通費と入館料）。10月の段階で大型観光バスを抑えたため比較的安価での見学が可能となった。

③大原美術館所蔵作品・コレクションの解説

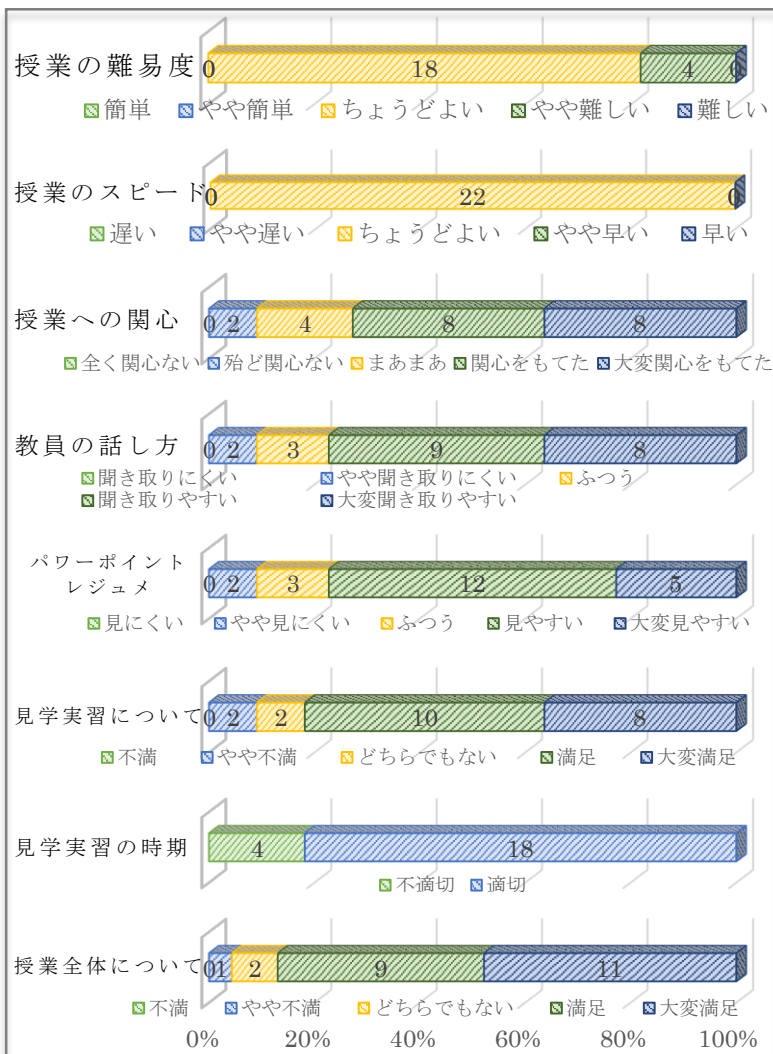
所蔵作品の中から、特にエル・グレコおよび印象派の作品を取り上げ、制作背景を明らかにしつつその魅力や画法について解説した。特に印象派については、制作当時の革新性を取り上げ、特色を明らかにしながらモネ、ルノワール、ドガの作品を紹介した。さらに西洋美術作品を扱う、日本で最初の美術館である大原美術館が、どのように作品を収集したかを説明し美術館見学に対する関心を高められるようにした。

④ディスクリプションの解説と実践

見学実習では、見た作品から1点取り上げて作品鑑賞レポートを作成することを課題としたため、美術品を言語化する手法（ディスクリプション）について解説し、ペア・ワークでその実践を行った。具体的には、1人が作品を隠した状態で言葉でのみ説明し、もう一人がその説明から想像図を起し説明者に渡した。説明者が、ペアの想像図から自分のディスクリプションに足りない箇所を検討・補足することで、作品を言葉で伝える際の客観性を獲得するようにした。

II. アンケート結果

選択見学実習の後、アンケートは独自の質問項目で実施した。質問は選択式と改善点に関する自由記述で、回収率は22/24人だった。集計結果は下の通り。なお紙面の都合上、自由記述回答の同意見はまとめて記した。



[授業内容に関する改善してほしい点] (自由記述)

- ・音楽のことも話してほしい。美術の授業では

モチベーションが持てない。(2人)

- ・カラー図版入りのレジュメが欲しい。(2人)
- ・机が横向きなので、スクリーンが見にくい。
- ・パワーポイントの字が切れていることがあったので改善してほしい。

- ・プロジェクターの機能が悪く画面がみにくかった。
- ・もう少し大きな声で話してほしい

[見学実習に関して改善してほしい点] (自由記述)

- ・見学時間が足りなかったので伸ばしてほしい。(8人)
- ・ピアノの大切なテストの時期だったので、見学日を変えてほしかった。(4人)

・学芸員の方にお話を聞きたかったが、先生とお話しされていたので聞けなかった。

- ・費用をもう少し抑えてほしい。

[その他] (自由記述)

・事前に大原美術館について学んだので、有意義な見学実習でした。

・美術には殆ど知識がなかったのですが、授業を受けて絵を見るのは楽しいなと思いました。

・実際に絵画を見ることができて楽しかった。

・時期も場所もよく、とても楽しかった。

・実家が倉敷なので大原美術館にも小学校で3回行っており複雑な気分でしたが、想像以上に楽しんで地元の良いにも気づけました。

III. 総括

1) アンケート結果を踏まえた、次年度への改善点

もっとも多い不満点は、見学実習の時間の短さと見学の時期についてだった。3時間半の見学時間を足りないと感じたことは嬉しい誤算だったので、今後は時間の延長を考えたい。また事前アンケートにより日程を決定したが、音楽の学期末テストの日程は10月には分からなかったようなので来年度は気を付けたい。また音楽文化コースでも美術への興味・関心が湧いたという学生がいる一方で、音楽と関係ないことにはモチベーションを得られないという意見も見られた。美術への関心が比較的高い造形芸術コース学生とのバランスを考えて対応することが、今後の課題と言える。

2) 授業の目的、到達目標、関連 DP を踏まえた総括

アンケートおよび見学実習に関する取り組み方から、授業の目的や関連 DP の(知識・理解)(思考・判断)はほぼ達成できていると考える。美術への関心を高められた学生は、今後も作品を実際に見る機会を自ら作ることに期待している。ただし、到達目標の2つ目「作品を正確に記述する」については授業中にはできていても、見学実習レポートでは生かされていないものが数点見られたため、レポートに応用する手法をさらに説明して、理解を助ける必要があるだろう。